

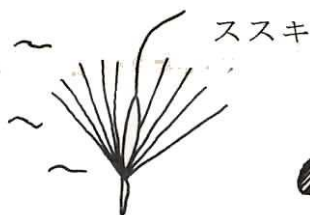
協議会ニュース

5号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

58.9

- ◎ 自然観察——ケモノヘンのオオサマになろう (井上久義) …… 1
- { 地域情報 }
- ・葦毛湿原の花 (3) —シラタマホシクサー…………… 2
- ◎ 鈴鹿山系のほ乳類メモ (2) (名和 明) …………… 3
- ◎ 会員移動 …………… 4
- { 自然を知るために }
- ・自然観察会のプランニングについて (塚本 哲) …………… 5
- { フィールドガイド }
- ・平原の滝 (西尾市) 自然観察会報告 (西三河支部) …………… 7
- { 考えてみよう }
- ・環境保全と市民の課題 (藤井敏夫) …………… 9
- ◎ 行事案内…………… 11



一風で運ばれるたねー



カエデ



一重みでころがるたねー

どんぐり



センダングサ



イノコズチ



オナモミ



ヌスビトハギ



チカラシバ

一動物などの体について運ばれるたねー

自然観察……ケモノヘンのオウサマになろう

井上久義（江南市）

偶然、私の眼はみどり色の葉の上で、それによく似た色をした昆虫が、花アブをとらえた瞬間を見てしまった。体長4 cm位のカマキリが、右のかまで首をおさえ、左のかまで尾の部分ガッチリとおさえて、背部にくらいついていった。懸命に足をばたつかせる体長1 cm位の花アブに、こちら懸命におさえこみ、かまをひきしめて口元に寄せくらくつく。4分後に片はねを落とし、13分後に腹部と尾部を切りはなし、尾の中味を吸い取るようにむさぼり喰べる。右のかまはまだガッチリと首をおさえ、その頭の方がまだ懸命に足を動かしている。8分経過、カマキリは尾部をむさぼり続け、花アブの頭部は動かなくなった。その時雨がボツボツ降ってきた。大粒のが20粒ほど。しかし、カマキリには何の影響も与えなかった。7分経過、カマキリは尾部をかまよりはなして口にくわえる。外皮のほんの少しになったのを捨てて、次に右のかまの頭の方にかかる。頭の方がまた足をばたつかせる。花アブの生命力ってどうなっているのだろう。カマキリは左のかまも使っておさえこみ、切断部にくらくつく。4分経過、もう花アブの足は動かない。いや、また動いた。その足を両方のかまを使っておさえる。横向きだったのが、下向きにさせられた。両方のかまでかかえこむようにして喰らいつく。更に抵抗する。横向きに逃れた。5分経過、アブの頭部は逃げた。クズの葉の上からころげ落ちて、草むらの中に沈んだ。

カマキリは、かまをたたみこんで動かない。かまをなめる。それからまたみがまえる。10分経過、かまをたたんで、みがまえて動かない。微動もしない。4分経過、左を向く。そのまま2分経過。後あしの位置で左まわりに移動する。2分たって、前とは反対向きになる。3 mmほどのハエがとまり、カマキリはふとその方へ眼をやり、かまえて、かまをのばしかける。ハエは逃げる。25分経過、カマキリは微動だにしない。私は、1時間半の自然観察を終りにする。

これは、科学的にいうと、2齢のオオカマキリが、クズの葉の上でナミホシヒラタアブを捕食した、実況報告です。

「どうしたの、いつものように行ったらいいのよ。」犬の散歩をして

いるオバサンは、そう犬に語りかけ、怪げんな眼を向けて通り過ぎる。そして、40分位して戻ってきて、まだそこに同じように立っている男を見て、まるで不思議なものを見るような、馬鹿にしたようなまなざしを私に送り、かわいそうにコソコソと横を通り抜けていった。

たかが、虫けらが虫けらを喰うというなんでもないことに、時間をつぶすなんてひまな人だと笑うだろう。しかし、今日58年7月2日、14時20分、オオカマキリがナミホシヒラタアブを捕食したのを知っているのは、私だけしかいないのだよ。そして、2匹の虫はいろいろなことを教えてくれた。けれど、一葉の上で展開された90分のドラマ、この事実を100人の人が見たら100の感じ方があるだろう。その沢山の話を聞かせていただきたいと思う。

— { 地 域 情 報 } —

★葦毛湿原の花 (3) シラタマホシクサー 東三河支部

この花が初秋の葦毛湿原を詩情ゆたかにしてくれます。湿原に群生して一面に咲いた様は、満天に輝く白い星のように実に見事です。

花の感じから白玉星草、咲く期間が長いので十月に入っても見られます。本年は雨が少なく、シラタマホシクサの群落も影響を受けているようです。例年、立秋ともなれば、かなりつぼみがふくらみ花茎の上に点々と白いものが目立つのですが、本年はかなり遅れているようです。しかし、コイや金魚の稚子に「トビ」ができるようにどうかするとずっと早く咲くものもあります。

今年、立秋2週間も前に上の湿原で一花、/週間前には湿原中央あたりで一花、見事な白玉が見られた。湿原の場所によっても多少咲く時期が違うようです。

立秋前後の葦毛湿原には、サギソウの白い花が舞い、ミズギクの黄色がゆれ、コナラ林のそでにノリウツギの花が群れてます。ミミカキグサの小さな花も見られます。

シラタマホシクサは、日本の中で東海地方だけに見られるもので、この花が一面に咲く湿原の様は実に美しいものです。

〔ニホンイノシシ〕

目撃したのは6例しかなく、それも林内でばったり遭遇しただけで、意外に観察しにくい動物のようです。ほとんどウリ子づれの家族群で、ブタと同じくブウィーブウィーという声をあげて逃げてしまいます。根を食すため一夜にして100m²以上も土を掘り返して畑のようにしてしまいます。掘り返すエネルギー分の食物が得られたのか心配になります。最近、兵庫県の六甲山では餌づけされた個体が観光客のそばまで出現するようになったと聞いています。

〔ニホンジカ〕

大型獣の足跡

85例、延べ194頭を目撃しました。シカは積雪1.5mを越える頂上部付近では、冬はその姿が見られません。そして、融雪後再びもどってくるようです。



シカにしてもイノシシにしても狩猟獣の宿命でしょうか、姿があらわになるような所では実によく周囲を警戒します。そんなシカも秋の繁殖期には大胆な行動をとるようになります。特に雄は雌の群を見つけるとすばやく近づき、執ように追いかけてまわします。この時期の雄ジカは、60kgをこえる体重のものもあり、角も実にみごとです。

〔ニホンカモシカ〕

現在、個体識別し定点観察を通年実施して、延べ500余頭を目撃しました。シカにくらべふたまわりほど小さく、そのためかシカが移動してくるとカモシカは逃げてしまいます。

植林木を食害すると問題になっていますが、当地の調査結果では次のようなことがわかりました。カモシカの分布はまばらで、利用していない土地も多いこと。少なくとも、急速な頭数増加は起きてい

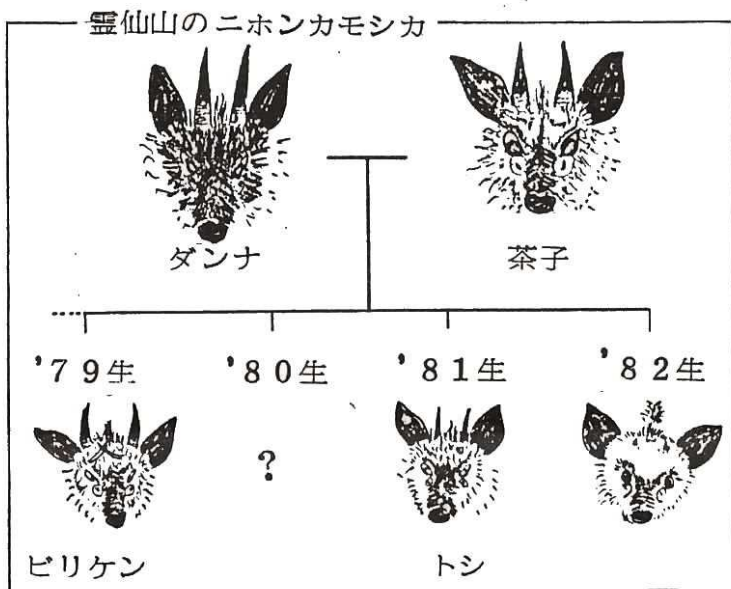
ないこと。特に、スギ植林木に対する摂食は、積雪期に限られ、全採食時間に対し最高でも 2% にすぎないこと。生息している標高部分と従来植林の行われてきた標高部分はほとんど重複しないこと、などです。

鈴鹿山系のカモシカも一部捕獲するかどうかのせとぎわにたたさられています。幸い（財）日本自然保護協会下のボランティア組織「かもしかの会」が食害防除作業など熱心に活動しており、今後の動向を「かもしかの会」と共に見守っていきたいと思っています。



標高が低い割には鈴鹿山系に生息するほ乳類は多種多様です。なかなか観察できる機会の少ない獣たちですが、よく見ないままにいつの間にか全滅とならないように気をつけたいと思っています。

(終)



〔 会 員 移 動 〕

- ◎ 脱退 後藤ひとみ 名古屋市北区（尾張） 転出
- ◎ 加入 辻 伸夫 0566-75-3522 、 菊地久乃 0565-45-4538 （西三）
- 井上好章 0582-64-4813 （尾張）

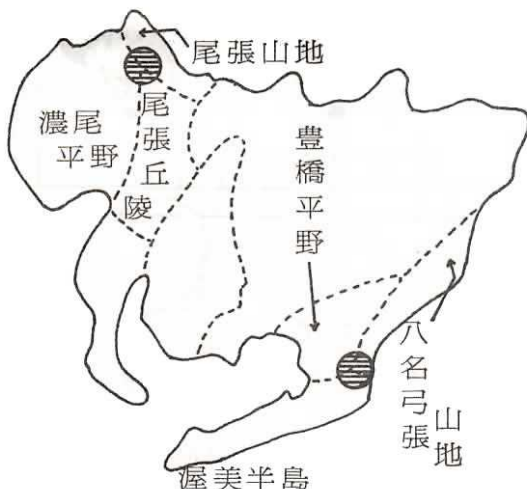
自然観察会のプランニングについて

塚本 哲（名古屋市）

自然観察会を企画する場合、主たるテーマを何にとるかは各指導者の持ち味を活かせば良いかと思います。

植物観察では、目的の地域に生育する植物群を系統的に調査しながら観察会を展開していくのが良いのではとも思います。出発点を海岸にとり、内陸に進むにつれて変化する植生の状況を観察させたり、平野から丘陵そして山地へと移り変わる植物相を見させるなどです。また、周囲からは孤立している山塊をみつけて、斜面の同位標高点（等高線沿い）をたどり、方位（斜面の向き）や風向、気温、日照時間等の気象条件の相違による生育状況の違いを発見させることも面白いでしょう。植物には弱いので、良い方法があれば是非御教示下さい。

地学の観察会では、地質変化の歴史に基づいて、古い時代（愛知県内では山地）と、新しい時代（丘陵、平野）の特徴を見るのが理想的ですが、観察地が広範囲にわたるため、一日行程では困難かと思われます。例えば、尾張山地（小牧・犬山・春日井）の中古生層、尾張丘陵（豊明・瀬戸）の第三紀層、そして濃尾平野（県北西部）の洪積平野を一行程で観察するという企画は無理でしょう。しかし、綿密に調べれば可能かとも思われますので、地形地質を志向する指導員の課題として、このような地学観察のモデルルートを策定してみたいと願っています。



● 各地質年代の地学観察が / 度に行けると思われる地域

尾張山地：チャート、頁岩、砂岩等の古生層

尾張丘陵：鮮新世～洪積世の瀬戸層群

濃尾平野：沖積平野及び第三紀層の丘陵や洪積台地

八名弓張山地：三波川変成岩、古生層

渥美半島：洪積層の渥美層群、古生層

豊橋平野：高、中、低位段丘、沖積平野

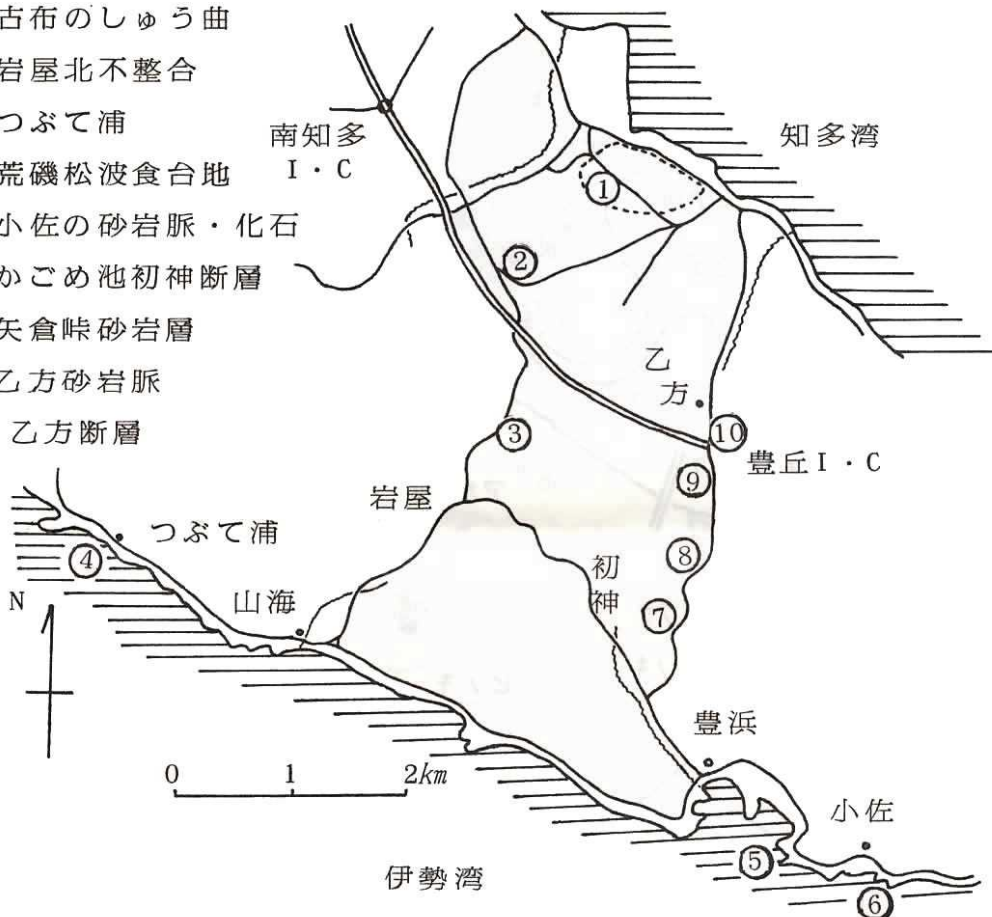
地形・地質の観察会では、通常対象とする地域に見られる特徴あるテーマを拾い出し、それをつないで一応の観察コースを立案するようである。以下の例は、最近行った自然観察行の計画図です。現地では、時間の都合で省略した箇所もありますが、これからの企画の際に御参考となればと思います。

- ・ 日程……雨天決行。季節的対応はなし。名古屋朝発夕着約10時間行程
- ・ 交通……自家用車往復100km。費用は/台4人の場合で約500円。

(多人数でマイクロバスも有利、公共機関はロスが多い。)

- ・ 資料……テキストは指導員が作成。ゼロックス A2 で/枚約150円。
- ・ 対象……小学生でも 2~3km の山野歩行ができれば可。

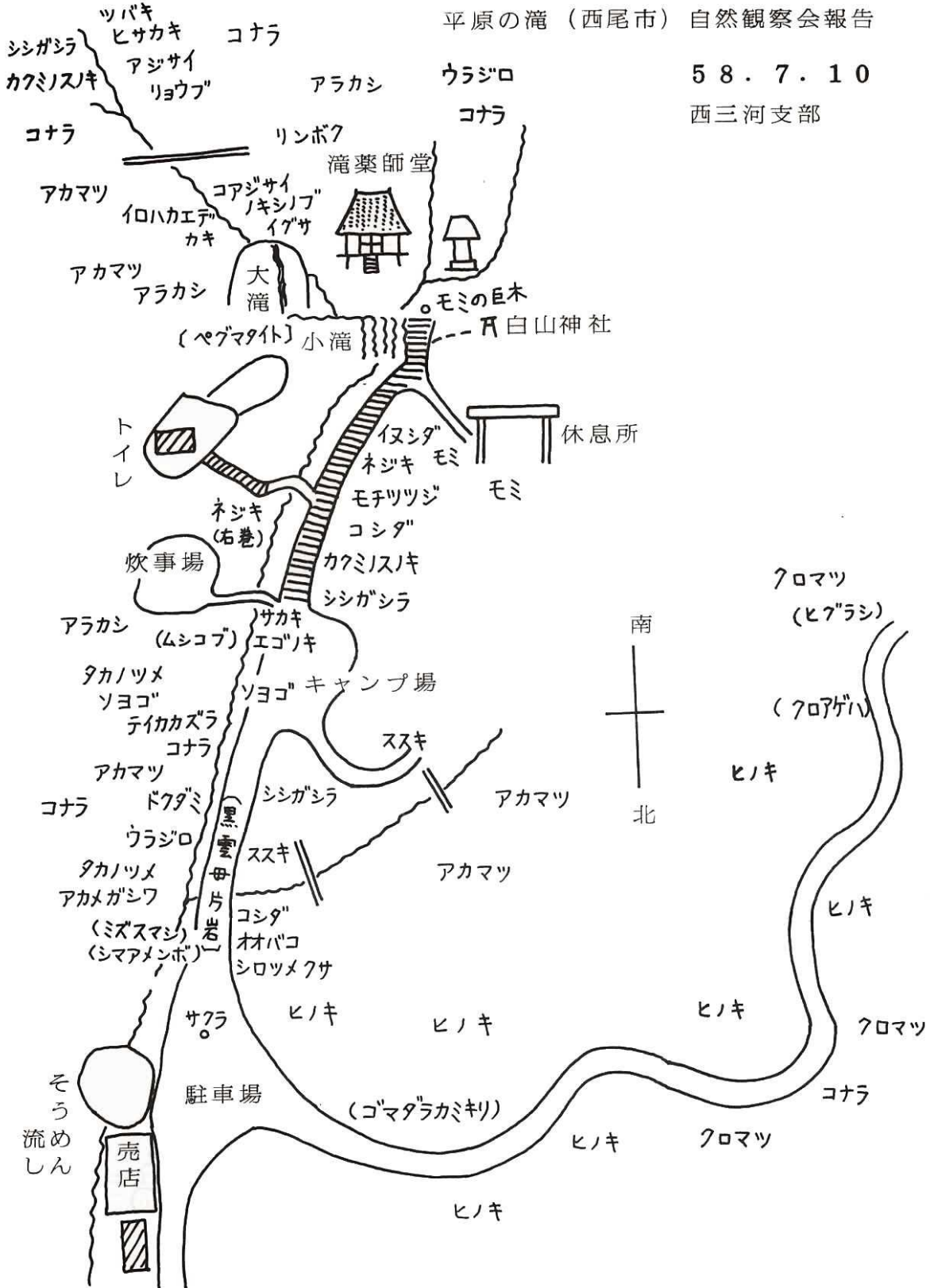
- 1 古布の海岸段丘
- 2 古布のしゅう曲
- 3 岩屋北不整合
- 4 つぶて浦
- 5 荒磯松波食台地
- 6 小佐の砂岩脈・化石
- 7 かごめ池初神断層
- 8 矢倉峠砂岩層
- 9 乙方砂岩脈
- 10 乙方断層



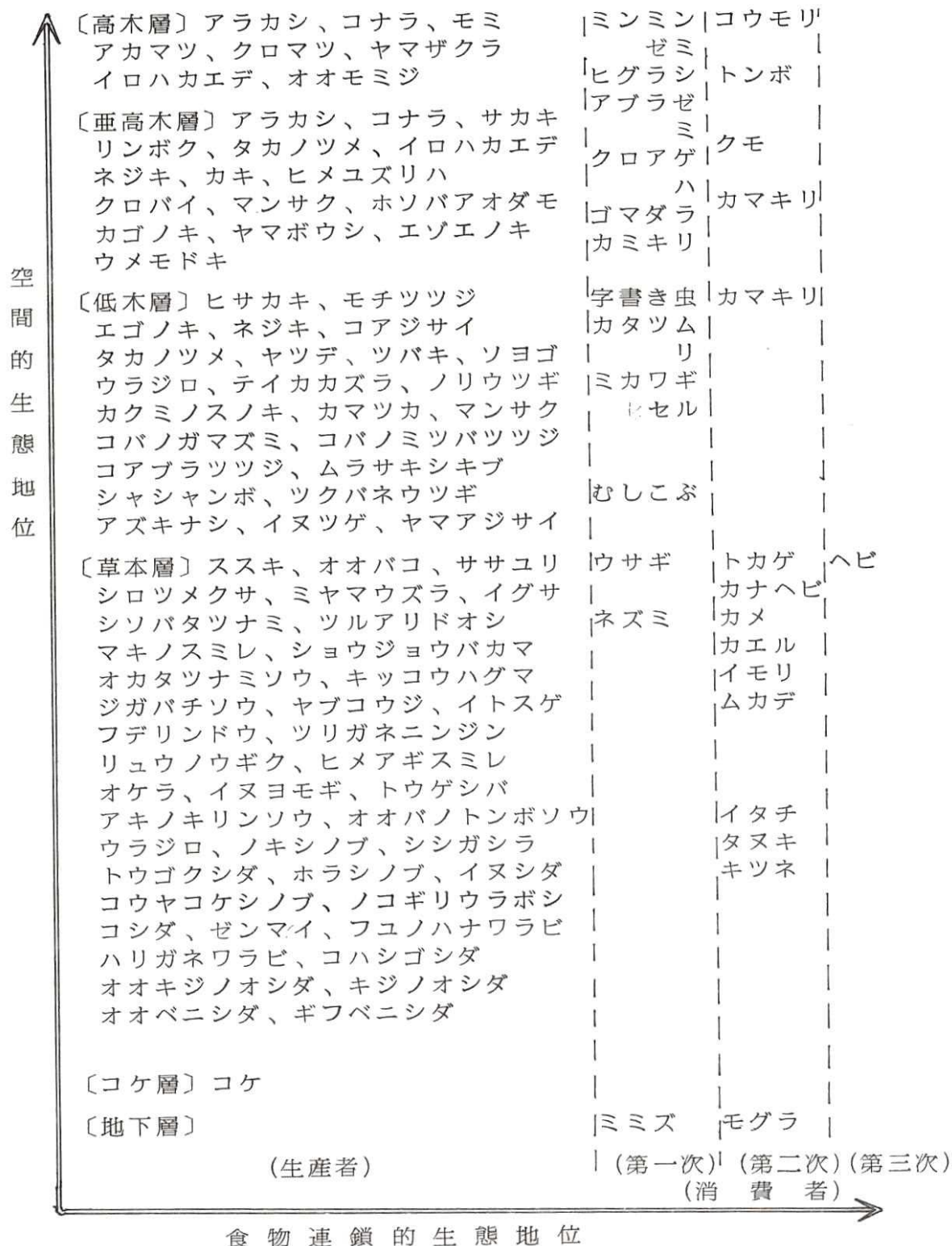
平原の滝（西尾市）自然観察会報告

5 8 . 7 . 1 0

西三河支部



平原の滝周辺の生態的地位について



1 環境の現状

「空気や水は、一時に比べて良くなった。川にはホタルがもどってきた。」などとよく言われます。確かに、硫黄酸化物による大気汚染やカドミウム、水銀による水質汚濁などは著しく改善されました。一頃の危機的状況は一応克服されたと言えるでしょう。これは、企業、住民、行政それぞれの立場における努力の賜であり、公害防止に向けた「日本の経験」として、世界の関心を集めました。

しかしながら、依然として改善されていない汚染現象もあります。窒素酸化物による大気汚染、中小都市河川の汚濁、赤潮に代表される伊勢湾などの汚濁等は、ここ数年横ばいの状況を示しています。そして、これらが改善されない理由として「都市・生活型公害の顕在化」が指摘されております。従来、公害の発生源は、工場が中心でありましたが、今日では工場からの公害がある程度鎮静化する一方で、日常の市民生活に帰因する公害が顕在化してきたと言われております。例えば、自動車からの排ガス、騒音、洗剤使用やし尿浄化槽からの生活排水による汚濁、カラオケやクーラー等からの近隣騒音、空かんに代表されるごみの散乱等々。

こうした公害の現状に対して、環境に関する市民の要望も変わってきております。かつては、健康の保護や生活環境の確保を求めるものが殆んどでありましたが、現在ではこれに加えて、そこに住む者としてより良好で快適な環境を求める声も出てきています。空かん拾いや緑の回復等いわゆる環境美化の運動の高まりは、端的にこのことを物語っていると思われます。

さらに、世界の工業生産の飛躍的拡大を背景として、地球的規模でも環境問題を考えることが必要であると言われております。例えば、スプレー等に利用されているフロンガスによるオゾン層の破壊、大気中の二酸化炭素の増加に伴う地表の温暖化、大気中の硫黄酸化物や窒素酸化物による酸性雨の発生、森林の伐採による表土の流出・砂漠化等について、各国が懸念をもっています。

2 環境保全のための市民の課題

1で明らかなように、環境をめぐる諸問題は、生活の原点に係わるものから地球的規模のものまで多岐にわたっております。したがって、その解決のためには、幅広い視野からの総合的な対応が必要です。次によ

次に、より良い環境を創っていくために、市民に求められている課題を想いつくまに挙げることにします。

(1) 生活排水対策……排水中の固型物は、デスポーザーや排水ピットなどにより極力除去するとともに、排水路の清掃に努める。(家庭からの排水がどのような経路を経て河川や海に出るのか調べてみるのも面白いと思います。)

また、し尿浄化槽については、適正に使用するのとは勿論のこと、定期点検、余剰汚泥の引き抜きなどを行うことが必要です。(し尿浄化槽の構造をもう一度確認する必要もあります。)

(2) ゴミなどのリサイクルの推進……廃品回収や不用品のリサイクルに関する市民の運動に積極的に関与し、さらに雑芥のたい肥化、空かんの再利用等にチャレンジし、ゴミの減量化を進める。(不用品のリサイクルについては、朝日新聞の毎週金曜日県内版などの利用が考えられます。)

(3) 身近な環境づくりのための積極的行動……住みよい郷土をつくっていくためには、そこに住んでいる人がより良い環境を求めて、考え行動することが肝要です。そのため、身近な場所の緑や水辺、町並、ゴミ処理等について認識を深め、その望ましいあり方を考え、その結果をあらゆる場をとらえて発言することが重要です。

(4) その他……マイカーの自粛、クーラー、ピアノなどの騒音への気配りも必要となっています。

誰一人として、豊かな自然、快適な生活環境を望まないものはないと思います。しかしながら、これは一朝一夕に達成できるものではなく、息の長い努力が求められる課題です。また、良好な環境づくりは、健やかな精神を持った人の手によって可能であります。

豊かな自然、良好で快適な環境を創り、子孫にそれを継承していくために、我々市民が担っている課題は極めて重大であると思います。

〔 行 事 案 内 〕

期日	主 催	内 容	備 考
58 9.21	名古屋（東西）	例 会 「観察テーマのとり 方について」	中小企業セン ター 6：30
9.23 (祝)	知多支部 (協議会)	自然観察会 {一般募集} (富具岬・・・美浜町)	申込制 (野間駅)
9.25 (日)	名古屋（東西） 支部	自然観察会現地調査 (東谷山)	フルーツパー ク本館9：30
10. 2 (日)	協議会	すぐれた自然を見る会 -2 (汐川干潟・伊古部海岸)	別途案内
10. 2 (日)	西三河支部	自然観察会現地調査 (真福寺)	真福寺山門 13：15
10.16 (日)	名古屋支部 (協議会)	自然観察会 {一般募集} (東谷山・・・名古屋市)	申込制
10.19 (水)	名古屋（東西）	例 会 「名古屋周辺の地質 と緑」	中小企業セン ター 6：30
10.23 (日)	協議会	学校教育における自然観察 の研究会 -2	岡崎市竜美ヶ 丘会館13：00
10.30 (日)	尾張支部 (協議会)	自然観察会 {一般募集} (小牧山・・・小牧市)	申込制 小牧山13：15
11.13 (日)	名古屋（東西） 支部	平和公園観察会	支部員別途案 内
11.16 (水)	名古屋（東西） 支部	例 会 「観察会の運営・・・ パターン化しない観察会」	中小企業セン ター 6：30
11.20 (日)	東三河支部	弓張山系観察会・・・石巻山 (静岡県との交流会)	石巻山登山口 10：00
11.23 (祝)	西三河支部 (協議会)	自然観察会 {一般募集} (真福寺・・・岡崎市)	申込制 山門 13：15

※ 他の支部の行事にも参加できます。

— { 編 集 後 記 } —

協議会ニュースの5～8号の編集は、「知る・見る・考える」を三本柱としています。指導員の皆様の活躍の手助けに少しでも役立つように、柔軟な幅広い視野で、今後の企画、編集に取り組みたいと思います。皆様の御意見もどしどしお寄せ下さい。投稿も歓迎します。

(TEL 052-774-4680 渡並)

協議会ニュース

7 号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

59.3

◎ 自然の中の善玉と悪玉について (井上久義)	1
{ 自然を知るために }	
・ 春の植物観察 (高瀬和之)	3
{ フィールドガイド }	
・ 葦毛湿原 (東三河支部)	5
{ 考えてみよう }	
・ 自然保護について考える (橋本 哲)	7
◎ 尾張支部の月例観察会に参加して (永井利幸)	9
◎ 行事報告・支部役員紹介	10
◎ 行事案内	11
◎ 会員移動	2
◎ 刊行物案内	8

チガヤ、ススキ、ヨモギ
オオバコ、イタドリ
ガガイモ、ノイバラ

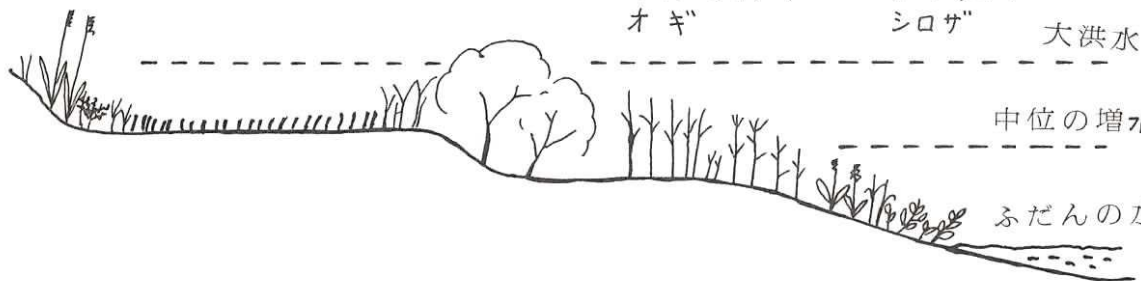
ツルヨシ
クサヨシ
タチヤナギ
イヌコリヤナギ
オギ

ギシギシ
オオイヌタデ
カモジグサ
ネズミムギ
シロサ

大洪水

中位の増水

ふだんの水位



手当たり次第に虫を捕えて、虫かごの中に、カマキリとモンシロチョウを入れておいたら、翌日になってモンシロチョウは、羽だけ残していなくなっていた。カマキリが食べてしまったのである。この時点において、私の息子の判断は、カマキリは可愛いモンシロチョウを、無残にも殺してしまったヤツとして、残酷な悪玉としてしまった。私共はそれまで都会に住んでいたもので、自然というものについて、観念的にしか知っていないから、この現実を見て、息子がカマキリを悪玉としたことは無理もないと思う。私自身はといえば、もう少し大人だから、多面的なことを知っているから、少なくとも、この地方の農家の子供達は、モンシロチョウの幼虫はキャベツの葉を喰い散らかす悪玉であり、そのモンシロチョウを食べるカマキリはむしろ善玉であると、認識していることを知っていたが、それは黙っていた。

冬に、カマキリの卵を野原で見つけて、拾ってきて、それを虫かごに入れておいた。春になって、そのカマキリが巣立ちをした。40余匹が現われ、そのうちの10余匹は逃げてしまったが、残った30余匹のものは、共喰いをはじめて、最終的には2匹が大きく成長した。カマキリは脱皮をする。従前に、手長エビを飼育して、その脱皮を子供に見せてあるが、カマキリの脱皮もそれに劣らず見事なもので、細いカマも、手足も、その形通りにぬけ変わる。

「あんなに沢山いたのに、2匹しか成長しなかった。カマキリは仲間も食べちゃうくらいにおなかがついてたんだね。」「もっと早くにカゴから逃がしてやればよかったね。そうしたら、他のエサを探して、共喰いしなかったかもしれないね。」「仲間さえも食べちゃうのだもの、モンシロチョウを食べるのもしようがないね。」

そして子供は、他の子供にいうのです。「そいつは、ものすごく沢山のなかから、ようやく生き残ったんだから、つかまえたりしてはいけない。また卵を産むかもしれない。」カマキリが悪玉から、それはそれなりに懸命に生きていることを認識するのに3年かかりました。

チョウやガの標本を作るのに、つい面倒で生きたままピンにさしたこ

とがあります。そうすると、その個体がメスだと産卵します。川原でタニシを拾ってきて、金魚ばちの清掃人として利用したのですが、沢山採りすぎて、残ったのを不透明の小さなびんに入れて、ふたをしておいたら、暗い、酸欠状態のなかで、2時間位後にひたを開けてみたら、沢山の子供が産まれていた。生命は、死に面すると子孫を残そうとする。その事実があった時、子供はガの卵がどうしたら成虫になるかを考えて、食草を探し、小さな袋に入れてその枝にぶらさげ、あるいは幹にはりつけてきたし、タニシの子は元の川原に返しに行った。

そういえば、ヒマワリの花が沢山の種子を残して枯れていくことや、タンポポが短い間の花から種子を散らして、葉だけになり、越冬していくことも、同じ生命の営みなのだとすることに、気付いていきます。更に、もしここに、そのヒマワリの種子を食べにくる野鳥やタンポポの葉を食べにくる小動物がいたら、このことに気が付くのにもっと効果的でしょう。

生命の営み、生命の尊さ、生命に対する慈くしみ。皆んな一生懸命なのだ。みんな、それぞれに助け合っているんだね。ぼくも、わたしも。

周囲のものを見て、比べて、自分を知る。この自覚ということで、ヒトはヒトになる。そして、このことを擬似体験でなく、からだで体験したいと願う。素朴なこの自覚が、ヒトの行動や思考の根幹にあれば、その人の生きざまは様々であっても、善であり人間的である。このことを自覚させてくれるものが、自然であることに気が付けば、自然保護とは何であるかも自明となるであろう。良い自然とか、悪い自然。ミクロの自然、マクロの自然。個々の自然、生態系としての自然。更にそうしたことをすべて包含した自然、そして自然保護ということも、ヒトがヒトであることを知る手段であろう。

3年かかり、あるいは殺すことにより自覚されたことを、もっと劇的に知らせる方法を索めながら、自然観察指導員は、野に出よう。

〔 会 員 移 動 〕

◎ 加入 後藤ひとみ 名古屋市北区天道町 1-16 No. 517

(尾張支部)

◎ 脱退 天野 徹 (知多支部) 高橋講治 (西三河支部)

春の植物観察

高瀬和之（西尾市）

今年の冬は記録的な大雪で、大変寒い冬でした。そうした厳しい冬も2月の立春を過ぎる頃になると、気の早いツクシが堤防の日当たりのよい南側の土手に顔を出します。今年は、2月19日に矢作川の堤防で初めてツクシを摘み、ヨモギとともに油いためにし、早春の自然の珍味を楽しみました。

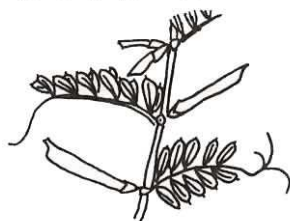
春の訪れを真先に告げるのは、オオイヌノフグリでしょう。2月になると田のあぜ道や堤防の縁などでの暖かい所では空色の美しい花を咲かせ、春を連れてくる先導者の役目をします。そして、3月から4月になると、カラスノエンドウ、ナズナ、スミレが花を咲かせ、一段と春の近づくことを教えてくれます。春の訪れを知るのに便利なものに生物季節や季節現象があります。名古屋におけるソメイヨシノの開花日の平年値は3月31日です。今年は寒さが厳しいため遅くなるかもしれません。

春の植物を観察するには、堤防が格好な場所です。私も矢作川の堤防をよく歩いています。堤防の春を代表する植物は、何といたってもノアザミです。ノアザミの花が真先に咲くのは河口近くの堤防で、順に上流へ向って咲いていきます。月見草の仲間（特にオオマツヨイグサ）にも同じことがいえます。このことは、矢作川の下流と上流の気温差等によることが考えられます。

堤防を自然公園にみたてて、花ごよみを作ったり、下流と上流の開花時期の違いなどを調べるのも楽しい自然観察の一つです。同じ場所を毎年定期的に歩いていると季節の移り変わりがよくわかります。そうしたことが、身近な所の自然を知る第一歩になるでしょう。できれば1つの植物を早春の芽の立つ時から、開花、結実まで続けて観察するとよいでし

ょう。スケッチをすればなお自然を知ることができます。

道端の草花に親しみ、心にゆとりを持つことが、自然観察に一番大切なことだと思います。



カラスノエンドウ

名古屋の生物季節及び季節現象

生物季節・季節現象		平年値
生物季節	ウメの開花日	2月12日
	ソメイヨシノの開花日	3月31日
	ツバメ初見日	4月4日
	ヤマツツジの開花日	4月5日
	ススキの開花日	9月4日
季節現象	初霜	11月20日
	終霜	4月2日
	初雪	12月17日
	終雪	3月12日

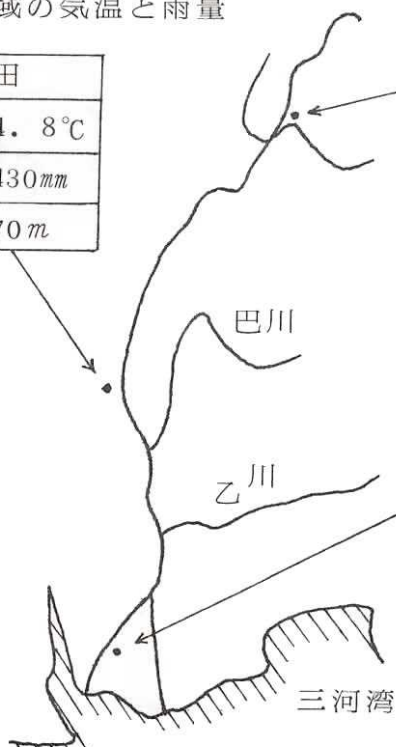
※昭和59年理科年表
による

生物季節や季節の現象から、春が早いか、遅いかなどの一応の目安ができます。

矢作川流域の気温と雨量

豊田	
平均気温	14.8℃
平均雨量	1430mm
標高	70m

稲武	
平均気温	11.7℃
平均雨量	1998mm
標高	505m



西尾	
平均気温	15.2℃
平均雨量	1288mm
標高	3m

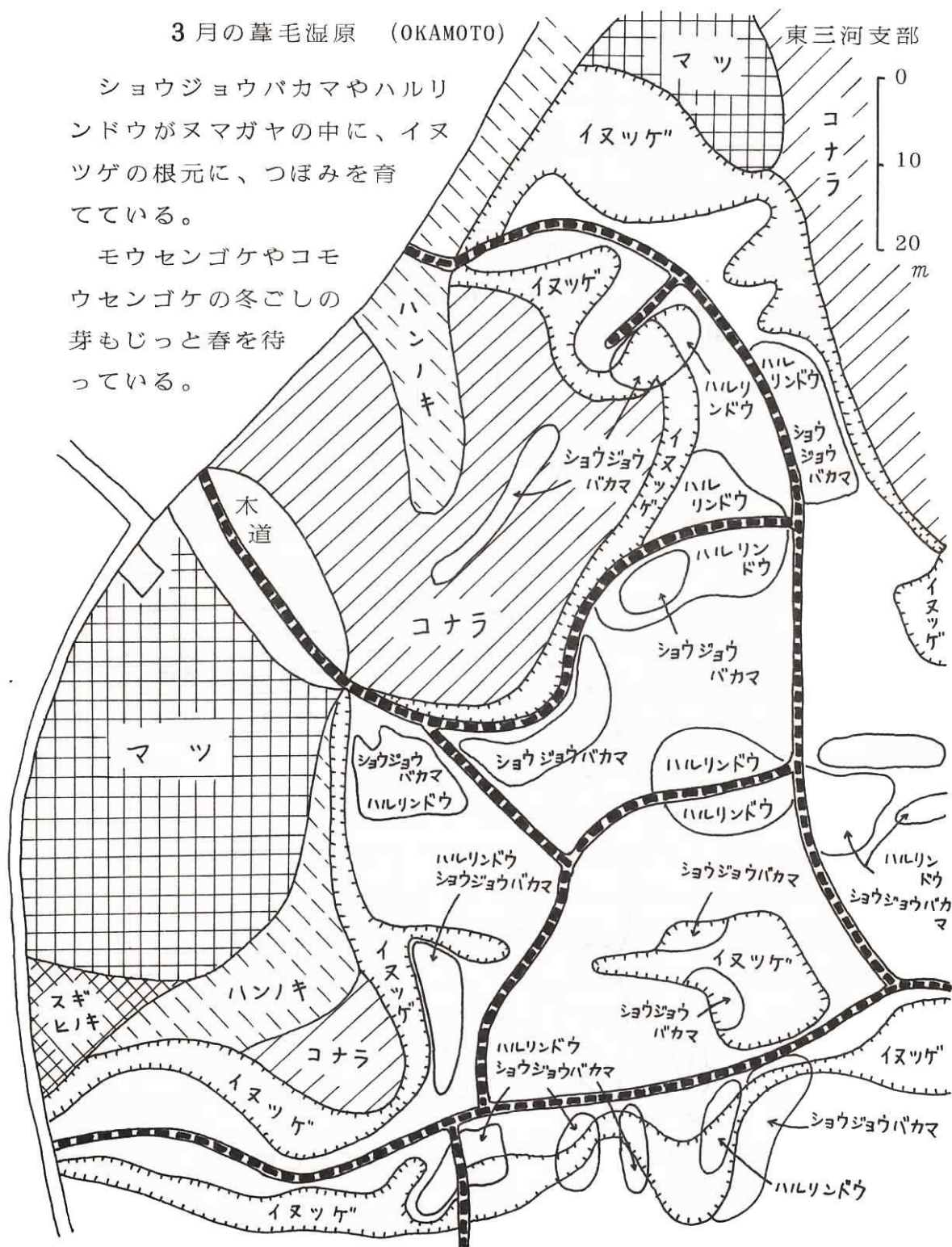
※平均気温・平均雨量は、1961年～1970年の年平均数値

自然を知るには、地域の自然現象を調べておくことも大切です。

3月の葦毛湿原（OKAMOTO）

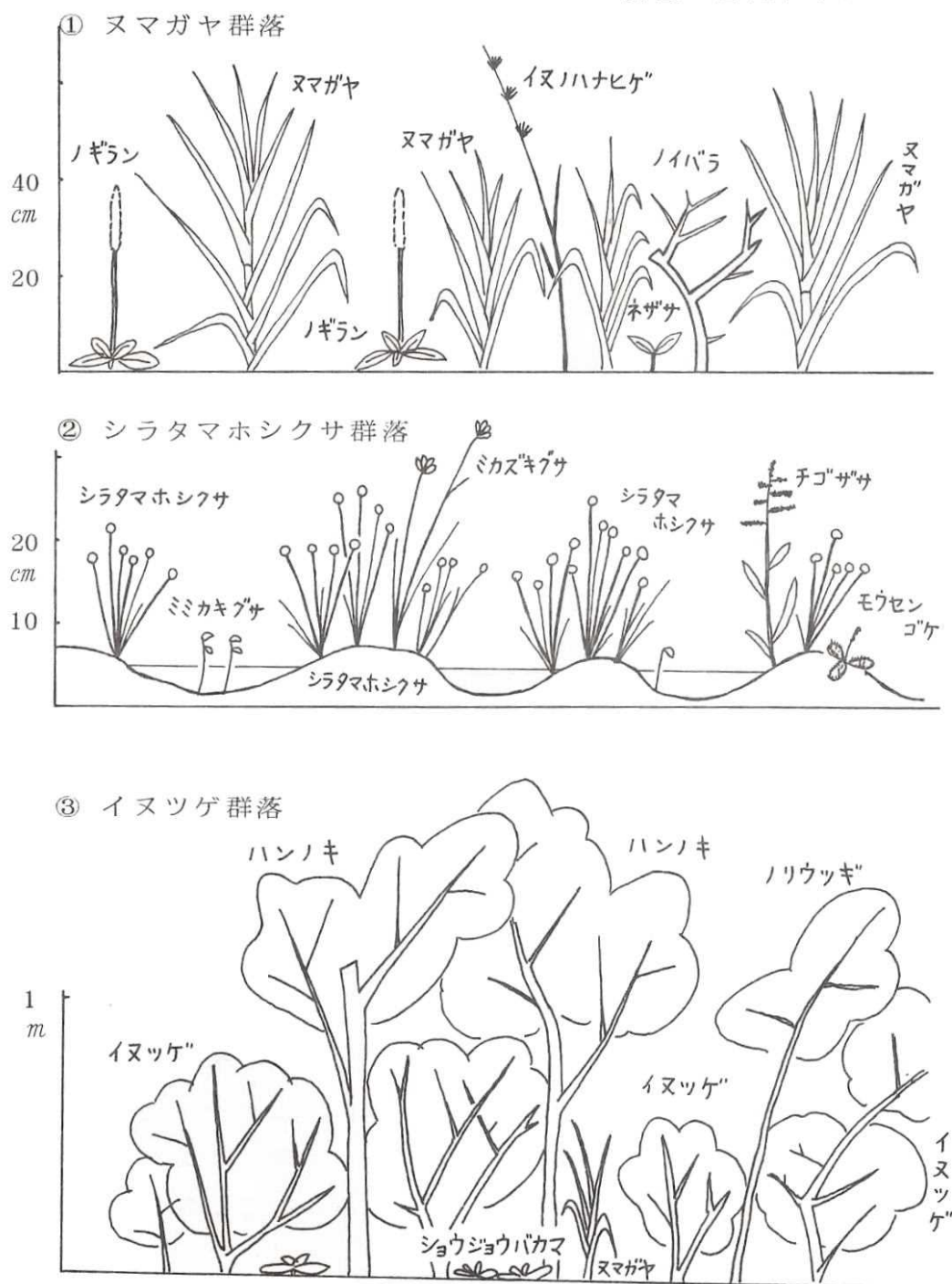
ショウジョウバカマやハルリンドウがヌマガヤの中に、イヌツゲの根元に、つぼみを育てている。

モウセンゴケやコモウセンゴケの冬ごしの芽もじっと春を待っている。



葦毛湿原の植物（群落断面模式図）

調査：倉内、中西



~~~~~ { 考えてみよう } ~~~~~

自然保護について考える ―― ( 自然観察会を通じて )

橋本 哲 (春日井市)

私は今までに、自然保護に関して自分の考えをまとめたり、秩序立てて論じたことはない。また、それができるともあまり思わない。なぜなら、私は極めてデキの悪い自然観察指導員で、皆さんの10分の1も自然観察会に参加したことがなく、いわゆるペーパー指導員であるからである。しかし、こんなあやしげな指導員ではあるが、自然観察についてある期待を、願望に近いようなものを心ひそかに抱いていることも事実である。自然観察を行うこと、観察会に参加すること、これらの行為を通じて、我々はあるものをつかみ得るのではないかという期待である。

まず思いつくことは、趣味としての、あるいは野外レクリエーションとしての自然観察という面である。人が魚つりに、囲碁に、テニスやスキーに生活の一部を割り当てて気ばらしを行うのと同様に、自然観察を気ばらしとして行うことができよう。日々の単調な、あるいはコセコセした人間関係のストレス解消の手段として、自然との触れ合いの中に気分転換を求めるものである。これはこれで十分意義のあることであり、結構なことだと思う。だが、私の抱いている期待はこれだけではない。

次に思いつくことは、野外教育としての自然観察という面である。ただ慢然と樹木や草本を眺めているだけでは、楽しいかもしれないが、それ以上のものは得られない。自然は、むこうから教えてくれることはなく、こちらの持っている道具立てに見合った返事しかしてくれない。自然についての知識は、書物を通じて得られることもあれば、野外における実践を通じ得られることもある。ただ、書物による知識の多くは、教条的であったり、花といえは桜というように観念的であったりして、生きた具体的な現実の姿が見えないし、また見ようとしなないきらいがある。それに比較すると、実践によって獲得した知識はユニークで面白いものが多く、一般の常識をくつがえすようなことさえある。

それでは、この自然観察を野外教育として見立てることは、これで自然観察の意義を十全にいいあてているであろうか。この野外教育、自然を素材とする教育は、またそのための自然観察は、自然界の現象をより

具体的に知ろうとすることだけであろうか。目前の自然の中から、地学や生物学、動植物に関する知識を我ものとするだけで十分であろうか。私は、自然観察の持つ教育的意義を否定しはしないし、反対に単なる教科書による画一的知識よりもはるかに豊茂で確かな知識を得るための手段として、他にはないほどのものであると考える。だが私の抱く期待は、こうした知識を獲得することだけでもない。

ここまで、まわりくどい言い方をしてきたが、最初にお断わりしたように、私の期待するあるものをつかみ、論理的に展開する自信は、私にはない。ただ、私の抱く感じとして、自然観察を行うことには、趣味やレクリエーション、あるいは自然科学の知識獲得のための教育の場としてだけでは汲みつくし得ない、もうひとつ奥にある、あるものを期待したい。自然観察という場には、それを期待できるだけの価値があると、私は思う。

このあるものとは、非常に大雑把で荒削りな表現をすれば、自己認識とでもいうようなものである。そして、自然観察を通じて獲得される自己認識は、机上ではなく、自然のフィールドにおける実践を通してこそ、徐々につちかわれていくものであるという気がする。また、この自己認識を得るような自然観察は、自然の営みそのものを対象とする故に、身近な見慣れた自然でも行い得るものである。



さらに、こうした自己認識を得る自然観察こそが自然保護にも通ずるものであり、ひいては自然保護とは人間保護であるということに行き着くのだという予感とも期待ともつかぬものが私にはあるのだが。



#### 〔 刊 行 物 案 内 〕

- ・「犬山市の昆虫」 発行：犬山市（秘書企画課） 58年11月  
昆虫の写真と説明（50種） 58P
- ・「東浦の自然」 発行：東浦町教育委員会 58年3月 136P（A5）  
東浦町の地質、植物、動物、ため池の生物  
（編集：東浦町自然環境調査研究団）

去る2月19日（日）に、犬山市継鹿尾で尾張支部の月例観察会が行われました。本稿では、そのもようをお伝えします。

当日は前々日の雪があちこちに相当残る寒い日であったにもかかわらず支部代表の長尾さんや当協議会会長の大竹さんを始め13名の参加者がありました。フィールドの継鹿尾観音では簡単な自己紹介のあと、長尾さんから今年の支部テーマである「食物連鎖」について説明を受け、観察の際のポイントとしては、「何が何を食べていたか」に注目しようと確認し合って観察会に移りました。

今回の観察会のハイライトは、まずなんといっても中小型は乳類の足跡を多く観察できたことです。消え残った雪の上に、タヌキ、ノウサギ、イタチ、テン、キツネの足跡がくっきりとついていて、大きさ、形、歩き方の特徴をじっくり観察できました。なかでもノウサギについては、足跡と同時にヒサカキの食こんやふんについても観察でき、支部テーマの貴重な記録となりました。もうひとつは、観察できた鳥の種類数が半減したことです。前回の1月26日の観察会では28種の鳥を観察したのが今回は15種に減りました。これについては、カキなどの果実がほとんど食べつくされたためではないかという推論がなされました。今後の研究の成果が待たれます。

観察会終了後、支部役員の改選や運営方針について話し合われました。支部の計画について紹介しますと、観察会としては、5月の犬山市主催の善師野観察会の指導を引き受けるのを始めに、県委託の観察会を秋に行うこととし、その他に毎月の月例会を夏ごろから一般参加の観察会にしてゆくことになりました。これについては、新聞のお知らせ欄を活用して会の開を伝えてはどうかという提案がなされました。また、植生調査の研修をぜひやりたいという強い要望が出されました。これについては、自分達のフィールドの植物を知り、他のフィールドとの比較を行うことができれば、観察指導のうえで有効な武器になるということで、参加支部員の意見が一致し、4月の月例会終了後善師野で行なわれることになりました。

以上が尾張支部の2月月例会のもようです。紙数の都合で、参加者のプロフィールなどをお伝えできなかったのは残念ですが、皆さんの観察指導にかける熱意には並々ならぬものがあり、そのことを強調して拙稿を締めくくります。



## 〔 行 事 報 告 〕

### 59. 2. 26 総会及び研修会

- ・総会 第1号議案 昭和59年度事業計画について

第2号議案 昭和59年度予算について

(以上可決されました。)

なお、天神崎（和歌山県）のナショナルトラストに本協議会も協力することになりました。

- ・研修会 「里山の保護と動物調査」

講師 木下陸男（大阪自然環境保全協会理事）

---

## 〔 支部役員紹介 〕

- ・名古屋支部（東・西）

代表：石田 肇（東）、福西寿広（西）

幹事：岩井隆史、岩崎龍生、内田克幸、佐藤国彦、朱雀英八郎

東 義己

- ・尾張支部

代表：山本尚三 副代表：石原正彦 顧問：長尾 智

幹事：井上久義、磯部譲治、岩山正光、後藤 春

会計：塚田桂子

- ・西三河支部

代表：三津井宏 副代表：宮本敬之助

幹事：水鳥富人、川辺泰正



〔 行 事 案 内 〕

| 期 日         | 主 催   | 内 容                      | 備 考                  |
|-------------|-------|--------------------------|----------------------|
| 59<br>4. 1  | 名古屋支部 | 野外研修会（東谷山）               | フルーツパーク<br>本館前 9：30  |
| 4.11<br>(水) | 〃     | 例会「ため池の保護と水生植<br>物の観察」   | 中小企業センタ<br>ー 6：30    |
| 4.13<br>(金) | 知多支部  | 室内懇談会                    | 阿久比町中央公<br>民館 6：00   |
| 4.22<br>(日) | 〃     | 自然観察会（猿投山）               | 東海市農業セン<br>ター 8：30   |
| 4.22<br>(日) | 尾張支部  | 月例観察会（犬山市）               | 犬山遊園駅<br>8：30        |
| 4.28<br>(土) | 協議会   | 企画運営委員会                  | 中小企業センタ<br>ー 2：00    |
| 5. 9<br>(水) | 名古屋支部 | 例会「志段味の歴史－<br>古墳を中心に」    | 中小企業センタ<br>ー 6：30    |
| 5.11<br>(金) | 知多支部  | 室内懇談会                    | 阿久比町中央公<br>民館 6：00   |
| 5.12<br>(土) | 東三河支部 | 研究会（緑の国勢調査<br>の進め方）      | 葦毛湿原駐車場<br>2：00（予定）  |
| 5.13<br>(日) | 知多支部  | 自然観察会現地調査<br>〔富具崎〕       | 野間駅 9：15<br>富具崎 9：30 |
| 5.20<br>(日) | 名古屋支部 | 自然観察会〔一般募集〕<br>東谷山       | （5月13日事前<br>調査）      |
| 5.27<br>(日) | 尾張支部  | 観察会指導者派遣<br>（主催：犬山市）     | 善師野駅 9：00            |
| 5. 3<br>(祭) | 協議会   | すぐれた自然を見る会<br>（御池岳・・・鈴鹿） | 別途案内                 |

〔 事務局から 〕

- ◎ 和歌山県田辺町の天神崎のナショナルトラストに本協議会としても協力することにしました。会員の皆様の御協力をお願いします。観察会等の行事に際してもPRして下さい。内容及び振込用紙は、協議会事務局または支部幹事等へお問い合わせ下さい。

なお、総会では5,000円集まりました。（天神崎へ送付済）